

令和2年度 日野市立東光寺小学校経営重点計画				自己評価シート				令和3年3月公表			
★学校教育目標				○明るい子ども ◎考える子ども ○強い子ども				★重点計画の概要			
★目指す学校像（ビジョン）				学校の教育目標、目指す学校像を達成するために、令和2年度日野市の基本構想「すべての「いのち」がよろこびあふれる未来をつくっていく力」を基本構想の理念とし、「いのち」「学び」「地活」について重点化するとともに、 ①新学習指導要領で重視される「特別活動」を校内研究として取り組み、児童の自尊感情や自己有用間を高める。学級活動を年間を通して、校内研究に位置づける。 ②児童の生活指導については、「東光寺スタンダード」を完全実施し、規範意識の育成、基本的な生活習慣・授業規律を確立する。 ③コミュニティスクールとして、地域との双方向のつながりを強め、地域に根ざした学校を目指す。地域の特色を生かした活動と、地域への貢献の立場に立った活動を充実する。地域・保護者ボランティアを授業をはじめ、教育活動全般へ積極的に要請する。							
【めざす児童・生徒像】				○自然を大切にし、優しい心で接する子ども ○自ら考え、判断して、よりよく学び、行動する子ども ○健康・安全に心がけ、前向きな気持ちで生活する子ども							
【めざす学校像】				○日野市自他ともに認める一番いい学校であり、誰もが通ってみたいと思う学校							
【めざす教師像】				○向上心をもち、常に指導法の改善を心がける教師 ○児童一人一人を見つめ、輝かせる教師 ○公務員としての自覚と地域貢献意識をもつ教師							
領域	中期経営目標	短期経営目標	具体的方策	評価指標・評価基準				学校評議員・学校運営協議会の意見	結果の分析と改善策		
				評価点	取組指標		評価点			成果指標	
いのち	自他の生命を大切に し、正義感や自尊感情・自己有用感、社会貢献意識など人権意識や豊かな人間性、社会性を育てる。	「特別の教科 道徳」を授業の要とし、教育活動全体を通じて家庭や地域との連携を図りながら、“いのち”の教育を推進し、自尊感情や自己有用感を高める。	“いのち”を実感できる体験的な活動や生きる喜びや楽しさを実感できる学習や活動を行う。 〈中心的な活動〉 ・全校「菊一人一鉢」栽培 ・農業活動の体験を通した「食」への感謝と正しい知識の理解 ・“いのち”をテーマとした道徳地区公開講座や学校公開での授業公開 ・保護者・地域の方々と共に避難所開設訓練の実施	4	4	“いのち”の取組を学期に1回以上行った教員が90%以上	3	4	自らすすんで菊の栽培にかかわった児童が100%	・年間を通して、“いのち”の大切さを身をもって体験できる活動が多いと思う。菊の栽培や食への感謝、避難訓練等、今後も継続することが大事。 ・菊については、他校に比べ本校は大変よくやっている。先生方が負担だという意見も多いようだが、地域の協力も得られているのでぜひ続けてもらいたい。	・避難訓練を『自分の命は自分で守る』を意識させ、自分の判断で行動することができるよう計画をしていく。 ・一人一鉢栽培は、本校の“いのち”の取組の中心として高学年は菊、低・中学年の花は今後検討していく。 ・児童の取組を左右するのは、担任の声掛けによるところが大きい。菊は校歌にも歌われており、学校のシンボルとして、さらに教員・児童の意識を高めていく。
					3	“いのち”の取組を学期に1回以上行った教員が80%以上		3	自らすすんで菊の栽培にかかわった児童が90%以上		
					2	“いのち”の取組を学期に1回以上行った教員が70%以上		2	自らすすんで菊の栽培にかかわった児童が80%以上		
					1	“いのち”の取組を学期に1回以上行った教員が70%未満		1	自らすすんで菊の栽培にかかわった教員が80%未満		
		校内支援体制及び相談体制を充実し、児童全員が安心して過ごすことができるよう、いじめ・不登校の未然防止、早期発見、即時対応に努める。	年3回の「ふれあい月間」等を利用し、全校で定期的ないじめの調査を実施すると共に、児童の自発的・自主的な活動を実施する。 〈主な取組〉 ・スクールカウンセラーによる5年生への全員面接 ・年3回の「いじめアンケート」の実施と聞き取り調査の徹底 ・朝の「あいさつ運動」への児童の参加 ・計画・代表委員会が中心になった「学校をよりよくするための児童発の取組」の実践	3	4	年度末に、いじめ・不登校の認知件数0、または解消の学級が100%	3.4	4	児童アンケートで、「学校が楽しい」と答えた児童が90%	・いじめをなくす意味で、定期的な調査の必要性は感じる。しかし、個々の児童がどこまでいじめを理解し、真剣に回答しているか疑問を感じる。 ・先生が不登校傾向の児童の家に毎朝電話をしたり、登校した際には個別対応等をしたりするなどして、登校の状況が改善したという話を聞いた。見えないところで努力している姿が素晴らしい。	・互いの考えや個性の違いを認め合う土壌が育ちつつあり、いじめやトラブルも減ってきている。特別活動の成果を生かし児童発の活動・取組を増やしていく。 ・原因が複雑に絡み合う「不登校」は、完全な解消は難しいが、確実に外部機関につなげ、組織的に対応する体制が整えられてきている。
					3	年度末に、いじめ・不登校の認知件数0、または解消の学級が90%以上		3	児童アンケートで、「学校が楽しい」と答えた児童が80%		
					2	年度末に、いじめ・不登校の認知件数0、または解消の学級が80%以上		2	児童アンケートで、「学校が楽しい」と答えた児童が70%		
					1	年度末に、いじめ・不登校の認知件数0、または解消の学級が80%未満		1	児童アンケートで、「学校が楽しい」と答えた児童が70%未満		
学び	「一律一斉の学びから自分に合った多様な学び方へ」と転換を図るために、校内研究・研修の充実を図り、指導法の工夫や教材研究を行い、児童の力を最大限に引き出す。	特別活動では、「話し合い活動」の積み上げを生かし、自分たちで考え、語り合いながら学び合いの学習活動を展開する。前学年の復習と新学年の学習内容の定着を徹底に努める。	児童の学力向上及び教員の授業力や学級経営力の育成・向上を図り、協働的な学習を中心とした授業改善を図る。 ・分からないことを「分からない」と言える雰囲気、「教えて」と言える関係、教え合える風土をつくる。 ・自分たちなりの方法で、自分たちなりの考えにたどりつく過程を大切にす。 ・ICT機器の有効活用やメディアコーディネーターを積極的に活用して、一人一人への支援体制を整える。	4	4	自らの研修成果や授業実践を公開し、校内研修に役立てた教員が80%以上	3.4	4	児童のアンケートで「授業が分かりやすい」と答えた児童が90%	・学校の基本はやはり授業である。学校でしか勉強できない児童に、力を付けて中学に送り出してほしい。 ・「授業が分かりやすい」と答えた児童には「どんなところが分かりやすいと思ったか」と詳しく聞いてみる。先生方のモチベーションも上がってくるのではないかな。	・特別活動の充実により、児童に話し合い・教え合い・認め合い・傾聴の姿勢等の力が付いてきたことで、それが他の教科・領域の学習の仕違につながり、よい効果をもたらしたと言える。 ・特別活動で培った力を基に、共に考え、協働して課題を解決する力を伸ばし、わくわくする授業を創造していく。
					3	自らの研修成果や授業実践を公開し、校内研修に役立てた教員が70%以上		3	児童のアンケートで「授業が分かりやすい」と答えた児童が80%		
					2	自らの研修成果や授業実践を公開し、校内研修に役立てた教員が60%以上		2	児童のアンケートで「授業が分かりやすい」と答えた児童が70%		
					1	自らの研修成果や授業実践を公開し、校内研修に役立てた教員が60%未満		1	児童のアンケートで「授業が分かりやすい」と答えた児童が70%未満		
地域	コミュニティスクールとして地域と学校との双方向の教育活動を展開し、地域に根ざした学校を目指す。	経験させてもらう学習から、地域に貢献できる活動へと高めていく。開校して現在までお世話になった保護者・地域の方々に感謝と尊敬の念をもたせる。	・地域と積極的に関わり、子供たちが主体となって考え、発信する活動、地域と共に行う活動、地域に貢献する活動など、双方の活動を行っていく。 ・開校40周年記念事業で築き上げた保護者・地域・関係諸団体との交流・対話を更に深め、家庭・地域と共に子供たちの学び場をつくり、教育活動の一層の充実を図る。 ・児童たちなりに東光寺小学校をよりよい学校にしよう、日野市で一番いい学校にしようとする決意をもたせる。	4	4	地域・保護者ボランティアを学期に1回以上活用した教員が90%以上	3	4	児童アンケートで、「地域のために役立つ行動ができた」と答えた児童が80%以上	・大人を敬う気持ちが足りない。学校での授業を通じ、大人と子供の立場の違いをしっかりと教え、正しい言葉遣いを教えていけたらと思う。 ・6年生の地域清掃が大変評判がよかった。自分たちが住んでいる東光寺を、自分たちの手できれいにするという意識が育っている	・地域の方々にお世話になっているという意識をもたせることで、また、その意識を行動に移すことができるように、教育課程に確実に位置付ける。 ・生活指導、道徳授業、様々な場面において、全職員が同じ指導をしていけるようにする。
					3	地域・保護者ボランティアを学期に1回以上活用した教員が80%以上		3	児童アンケートで、「地域のために役立つ行動ができた」と答えた児童が70%以上		
					2	地域・保護者ボランティアを学期に1回以上活用した教員が70%以上		2	児童アンケートで、「地域のために役立つ行動ができた」と答えた児童が60%以上		
					1	地域・保護者ボランティアを学期に1回以上活用した教員が70%未満		1	児童アンケートで、「地域のために役立つ行動ができた」と答えた児童が60%未満		
特別活動	児童が互いに認め合う中で、「自分は大切な存在である」「自分が役に立っている」「自分の居場所がある」ことを実感し、自尊感情や自己有用感を高める。	学級経営充実のため、年間を通して特別活動の研究と研修を行う。子供たちには実践を通して達成感を積み重ねることで自己有用感をもたせ、自信をつけさせる。	学級会の進め方について、児童も教員も共に学ぶ。クラブ活動・委員会活動活動の進め方についても学級会の話し合い活動を活用し、児童の手によって計画をなどを決められるようにする。 〈主な手立て〉 ・教師用指導資料「楽しく豊かな学級・学校生活をつくる特別活動」、副教材「楽しい学校生活」の活用 ・全学級の学級会授業観察 ・他校の実践を参考にしながら、改善できるところから着手	4	4	特別活動の資料または副教材を活用した学習活動を行った教員が90%以上	3.2	4	児童アンケートで「よりよい学級・学校にするために話し合うことができた」と答えた児童が80%以上	・東光寺小で学級崩壊がないと安心しているが、よりよい学級経営を行うため、どのような立場で、何をすべきか考え、実践していけることが非常に大切。 ・民生委員や校友会として今年は学校にいる時間が短かったが、菊の作業をしていると、4年生の女子がばっときて手伝ってくれる。「お疲れ様です」と声を掛けてくれた。確実によい学校・雰囲気になってきている。	・「自分で考え、友達と話し合って決め、実践する」ことの達成感や楽しさを児童が分かり始めている。特別活動の取組により児童の変容が様々な場面で見られるようになってきた。 ・今年度、新たに始まったキャリア・パスポートについては児童の発達段階に応じた内容で、保護者にも周知徹底したことで、丁寧なコメントを記入してもらうことができた。
					3	特別活動の資料または副教材を活用した学習活動を行った教員が80%以上		3	児童アンケートで「よりよい学級・学校にするために話し合うことができた」と答えた児童が70%以上		
					2	特別活動の資料または副教材を活用した学習活動を行った教員が70%以上		2	児童アンケートで「よりよい学級・学校にするために話し合うことができた」と答えた児童が60%以上		
					1	特別活動の資料または副教材を活用した学習活動を行った教員が70%未満		1	児童アンケートで「よりよい学級・学校にするために話し合うことができた」と答えた児童が60%未満		
			日野市教育委員会研究奨励校3年目、「自他を大切にし、よりよい学級・学校くを目指す児童の育成～互いに認め合い、よさを発揮し合う集団活動を通して～」を主題に特別活動の研究を行う。研究発表は10月13日（火）。 ・各分科会で1回ずつ研究授業を実践し、講師を招いて研究協議を行う。 ・研究主題に基づく特別活動の実施。 ・学校公開時及び教育委員会訪問時に全学級学級会の授業を行う。	4	4	研究主題に基づく特別活動の取組を行った教員が90%以上	2.9	4	児童アンケートで「学校や学級のために自分が役に立っていると感じる」と答えた児童が80%	・先生方や学校運営協議会の委員がもっと他校を見て回る取組が必要。（コロナが落ち着いたら）他校を知れば、気付くことも多い。そして評価の尺度も変わってくる。児童は、何か取組をやればそのときだけよく見せようとする。日常的に見ていくことが大切である。 ・教師も児童も、自ら危機感を持ち、自分を磨いていくことが大切である。	・研究発表を終え、よりよい学級づくりや互いのよさを認め合う力は確実に伸びていると言える。また、学校や学級のために役立っているという実感ももつことができるようになっている。 ・異年齢集団による交流・活動を充実させ、全校選定などの新たな取組に挑戦し、教員も児童も、もっと視野を広げて考え、工夫する力を育てていく。
					3	研究主題に基づく特別活動の取組を行った教員が80%以上		3	児童アンケートで「学校や学級のために自分が役に立っていると感じる」と答えた児童が70%		
					2	研究主題に基づく特別活動の取組を行った教員が70%以上		2	児童アンケートで「学校や学級のために自分が役に立っていると感じる」と答えた児童が60%		
					1	研究主題に基づく特別活動の取組を行った教員が70%未満		1	児童アンケートで「学校や学級のために自分が役に立っていると感じる」と答えた児童が60%未満		
生活	生活指導の充実と豊かな人間関係の育成及び安全で安心できる学校体制をつくる。	学校生活全体を通して、基本的な生活習慣や学校のきまりについて、全教職員が、いつでも、どこでも一貫性のある指導を行う。	「東光寺スタンダード」の基本的な考え方や取組方を共通理解し、完全実施を行う。 ・時間の厳守 ・廊下の歩行 ・来校者や友達への挨拶の励行 ・脱いだ靴の整理整頓、ゴミ拾い等の奨励 ・授業を中心に互いに敬称をつけて名前を呼び合う習慣	4	4	東光寺スタンダード実施の自己評価で3以上達成したと答えた教員が80%以上	3.1	4	児童アンケートで「東光寺スタンダードが実行できた」と答えた児童が80%	・靴箱から出ている靴が多い。整理整頓の基本が靴箱や道具箱。 ・時間を遵守する意識が足りない。まだ遅刻する児童がいる。 ・清掃の手順、やり方を身に付けさせたい。 ・まだすすんで挨拶ができる児童が少ない。ねばり強く一対一で声を掛け続けられ、挨拶が返ってくる。学年によって差異があり、数字だけだと雑な評価になる。	・「東光寺スタンダード」は、全校の共通した取組が大前提である。クラスによる差異が生じている様子が見られる。年度当初だけの確認では不十分である。今後は、生活指導委員会や職員会議等で、随時、策定の原点に立ち返り、軌道修正しながら徹底を図る。
					3	東光寺スタンダード実施の自己評価で3以上達成したと答えた教員が70%以上		3	児童アンケートで「東光寺スタンダードが実行できた」と答えた児童が70%		
					2	東光寺スタンダード実施の自己評価で3以上達成したと答えた教員が60%以上		2	児童アンケートで「東光寺スタンダードが実行できた」と答えた児童が60%		
					1	東光寺スタンダード実施の自己評価で3以上達成したと答えた教員が60%未満		1	児童アンケートで「東光寺スタンダードが実行できた」と答えた児童が60%未満		

※評価指標・評価基準は、2の段階を現状としています。